

第三百十七話 世界が評価し、国内では批判が根強い珍妙さ！

大東亜戦争の意義をどのように世界は捉えているのかを知るに好個の書籍がある。吉本貞昭著「世界が語る大東亜戦争と東京裁判 アジア・西欧諸国の指導者・識者たちの名言集」（ハート出版）である。よくぞ、纏めて貰ったものである。彼等は先の大戦の本質を日本人よりも理解している。その内容を簡単に紹介する。NET情報には種々あるも・・・



- 1 世界の指導者は何を語ったかに掲載されている主要人物（計 110 名）
同書に掲載されている識者数は 110 名であり、その内訳を筆者なりに区分すると
 - (1) かつて敵国であった国々（米英蘭蔣等）
米国 15 名、英 7 名、蘭 1 名、豪 2 名、中国 1 名
 - (2) かつて米欧の植民地であった国々
マレーシア 11 名、カンボジア 1 名、シンガポール 1 名
インドネシア 27 名、インド 14 名、ビルマ 5 名、スリランカ 5 名
 - (3) その他の関係国（日本、友邦）
韓国 6 名、台湾 4 名、タイ 6 名
 - (4) 全く無関係であった国 南アフリカ 1 名
- 2 識者の評価等総括
 - (1) 日本による攻撃を契機とし独立を果たした国々（アジア開放）の識者は、大東亜戦争に対し非常に好意的な評価が強い。
 - (2) 日本により植民地支配を終焉させられた国々の識者も、新しい時代の幕開けだったとの認識を共有し、大東亜戦争の世界史的意義を認めている。
 - (3) 当時の政治的指導者、軍事指導者のみならず、学者、裁判官、作家等幅広い層から大東亜戦争に対する肯定的な支持が認められる。
- 3 著名人としては、フーバー米国大統領、マッカーサー元帥、アーノルド・トインビー英歴史学者、ネルー印首相、スカルノ及びスハルトの両インドネシア大統領、ラウエル比大統領、マンデラ南ア大統領等が顔を並べる。
- 4 識者の名言紹介
 - (1) ククリッド・プラモード（タイ首相）（同書 134 p から引用）
『日本のおかげで、アジア諸国は全て独立した。日本というお母さんは、難産をして母体をそこなったが、生まれた子供はすくすくと育っている。』日本というお母さんがあったためである。（以下略）』
 - (2) ネルソン・マンデラ（南アフリカ大統領）
『当事国ではない南アフリカのマンデラ氏「『日本軍がインド洋を越え、エジプトまで来ていたら、南アは 1950 年ごろには独立していた』と口々に言うので本当に驚いた。（以下割愛）』（同書 181P から引用）
 - (3) アーノルド・トインビー（英歴史学者）
『第二次大戦において、日本人は日本のためというよりも、むしろ戦争によって利益を得た国のために、偉大な歴史を残したと言わねばならない。（以下割愛）』（同書 191 p から引用）（利益を得た即ち独立を果たした国の意）
- 5 若干の私見
世界の見方と日本（と中国、韓国等）の見方の余りもの落差に愕然とする。近隣国条項や日本を貶めた幾つかの談話を見直して、国際常識に則った正当なる現代史の再構築がなされねばならない。大東亜戦争の世界史的意義の再確認がなされてこそ、誇りある日本の再生が可能になると確信する。

(了)